

南ア月報 (2009年7月)

在南ア日本国大使館

1. 内政関連

●大規模ストライキ決行

27日、全国鉱山労働者組合（NUM）及び南ア自治体職員連合（SAMWU）が相次いで賃金引き上げを要求して7万人が参加する大規模なストライキを行った。7月中、各連合は契約業者に対し賃金引き上げ、労働環境の改善等を訴え交渉を続けていたが、難航していた。NUMは、鉱山業界だけではなく、建設業界、電力エネルギー業界も抱え込む大規模労組であり、2010年のFIFAワールドカップのスタジアム建設やインフラ整備にも影響が出る恐れがあると懸念されていた（注：後述のワールドカップ会場建設作業員によるストライキとは別）。

このストライキに参加した公務員デモの一部が過激行動（ゴミを路上にまき散らす、タイヤを路上で燃やす等）に出たため、各地では警察が対応。西ケープ州 Plettenburg Bay では、警察部隊がデモ参加者に対してゴム弾と催涙弾を使用し、デモ参加者8名、警察官4名が負傷した。また、リンポポ州 Polokwane では、警察部隊がデモ参加者にゴム弾を使用しデモ参加者25名を逮捕した。ストライキは30日、12%の引き上げが決定され収束を見た。

●ネルソン・マンデラ・デイ

南ア政府は毎年7月18日のネルソン・マンデラ元大統領の誕生日をネルソン・マンデラ・デイとして国際的に人道的な行動を呼びかける日と定めた。マンデラ財団等、このネルソン・マンデラ・デイの推進団体等は、マンデラ元大統領が67年間、社会の変貌をもたらすために働いてきたことに因んで、世界中の人々に、18日の67分間を、地域コミュニティのために奉仕することを呼びかけた。今回は、マンデラ大統領の偉業を称え、マンデラ・デイの設立を祝うコンサートがニューヨークで開催された他、南ア各地で関連のボランティア行事が催された。なお、ズマ大統領の18日の67分の過ごし方は、地域の老人センターに訪問することだった。

●国家警察長官にツェレ氏任命

29日、ズマ大統領は、ムベキ元大統領時代にセレビ前長官が自主的に休職してから1年半近く実質的に空席であった国家警察長官に、ベキ・ツェレ（Bheki Hamilton Cele）クワズール・ナタール州運輸地域安全大臣を任命した。ズマ大統領は演説の中で、新政権は現在の警察司法システムを再生させ、犯罪減少という目標を達成するためツェレ氏を任命したと述べた。ツェレ氏はカウボーイ的派手な風貌と歯に衣着せぬ発言でこれまでもメディアの注目を集めてきており、今後の仕事ぶりが注目される。野党側はこの任命が不適格であるという姿勢を崩していない。

2. 外政関連

●ズマ大統領の第13回AU総会出席

1日から3日にかけて、ズマ大統領はAU総会に出席。初日には経済成長と食糧安全保障のための農業投資に関するスピーチを行い、アフリカ農業大臣会合の定例化を支持した。また、ズマ大統領は閉会式のスピーチで、南ア政府と並んで故オリバー・タンボANC総裁の功績について述べる等、ANCのアフリカへの貢献につき多く言及した。

●ズマ大統領のG8ラクイラ・サミット出席

7日から10日までズマ大統領は、イタリアに滞在し、G8ラクイラ・サミット及びG5（メキシコ、ブラジル、中国、インド、南ア）会合に参加した。G5会合の際にズマ大統領は、(1)「南」の諸国として、北の先進諸国とのパートナーシップをもって、より良い、より公平な世界を作るために協力すること、(2) G8は、G20のロンドンサミットでの合意に基づいて、世界経済危機に対する協調した対応策を確保する必要があること、(3) 更には国連安保理を含めた国連システムを抜本的に改革が必要であること等を盛り込んだスピーチを行った。またこの機会にズマ大統領は、カルデロン・メキシコ大統領、戴中国国務委員、潘国連事務総長、ブラウン英首相、メル

ケル独首相、ゼーリック世銀総裁、オバマ米大統領らと会談した。

●第15回非同盟諸国 (NAM) 会議

(1) 15日から16日、ズマ大統領はエジプトで開催された第15回非同盟諸国 (NAM) 首脳会議に出席。同会議では、国際金融危機の非同盟諸国への影響や NAM の影響力の強化等が話し合われ、軍縮問題や民族自決問題等をはじめ多岐にわたる問題に関する決議文書が採択された。南アはネルソン・マンデラ・デイの決議案を提出し、この決議は全会一致で採択されただけでなく、同様の決議を第64回国連総会でも採択するよう NAM 会議の指導者達から要請があった。

(2) ズマ大統領に先立ちエジプト入りしたヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣は、NAM 閣僚級会議においてパレスチナ問題についてパレスチナ国家建設による恒久的な中東和平の実現を呼びかけ、イスラエルによる西岸の壁の建築に懸念を表明し、国連、特に安保理にイスラエルの一部で悪化している暴力活動を非難するように求めた。エジプトやスリランカの外相と会談を行っている。

●エルバラダイ IAEA 事務局長の南ア訪問

11月に任期満了を迎えるエルバラダイ IAEA 事務局長が、これまでの IAEA に対する協力を謝意を表すことを目的に南アを訪問。21日にはズマ大統領と会談を行った。会談後の記者会見で同事務局長は、南アの様々な分野における原子力関連技術における前進を評価し、南アはアフリカ大陸の他の諸国における原子力関連技術の発展を支援するにあたって大きな役割を果たしうると述べた。また同事務局長は、原子力と核兵器について、「9ヶ国が継続して核兵器を保有・開発し続ける中で、核非保有国に対しては核兵器を保有しないように呼びかけるような国際システムは持続的とは言えない」、核兵器に頼らない新しい安全保障システムを構築できるよう、ウブントゥ（南アの言葉で「人間としての思いやり」にあたる）の精神を取り入れ、考え方をそのものを変えていかなければいけないと呼びかけた。

3. 経済関連

●インフレ

消費者物価指数 (CPI) は6月に、ここ2年で最低水準の前年同月比で 6.9%まで下がり、

予測値の 7.1%を下回った。インフレの急激な落ち込みによって、さらなる政策金利の切り下げの期待が高まった。南アの投資銀行 Investec のエコノミストは、9月にはインフレ・ターゲットの 3~6%内に戻るものと予測している。CPI は 2007年4月以降、インフレ・ターゲットを上回ってきた。

●自動車販売

6月に国内新車販売の下落度合いは小さくなってきたものの、輸出は引き続き落ち込んでいる。南ア自動車生産者協会 (Naamsa) によると、国内新車販売台数は6月に前年同月比で 23.7%落ち込み、30,065台となった。1月から6月の上半期の新車販売台数は前年同期比で 33.8%落ち込み、19万 245台となった。他方、自動車輸出台数は6月に前年同月比で 52.5%落ち込み、11,760台となった。

●景況感

南ア商工会議所 (SACCI: South African Chamber of Commerce of Industry) のビジネス自信指数 (BCI) は5月の 81.8ポイントから6月に 83.1ポイントへと上昇した。これは、4月以降初めての改善を示しているが、同調査はビジネスに対する気運は脆弱なままであり、経済政策の変化に対して無防備であることも示した。SACCI は「数々の指数が、地元経済の低迷が底を打ち、中には回復してきた活動もあることを示唆している」と言う。

●雇用

南ア統計局によると、第2四半期の失業率は 23.6%となり、第1四半期の 23.5%から上昇した。非求職者も含めた非公式・拡大失業率は第1四半期の 31.2%から第2四半期に 32.5%まで上昇した。今年の上半期に 47万 5千人が職を失った。大手銀行 Standard Chartered のリサーチ部長は雇用創出を犠牲にしてまで賃金を上げるべきかどうかを問い直す必要があると述べた。

●電力

中国電力企業連合会 (CEC: China Electricity Council) の Liu Dongye 氏は7月にザンビアで開催された SADC 電力部門投資家のための討論会で、「中国は南アが必要とする 55,000MW の電力キャパシティのために 2025年までに技術と設備を提供する。これは援助というよりは商業取引である」、「CEC は

電力産業の国際貿易を促進するための部門を設置した」と発表した。

4. 広報・文化

●ワールドカップ会場建設作業員のストライキ

8日、ワールドカップ大会会場となるスタジアムの建設作業員が、賃上げなど待遇改善を求めたストライキを決行した。スタジアム建設には南アフリカ全土で約7万人の労働者が関わっているが、平均給料は月2,500ランド（約3万円）程度と言われている。労働組合側は13%の賃金アップを要求しているのに対し、雇用者側は11.5%の上乗せを提示し、当初交渉は難航した。ケープタウンのグリーンポイントスタジアム周辺では暴徒化する建設作業員に警官がゴム弾を発砲するなど事態の悪化も見られ、13日には労働組合はストライキの継続を発表。15日に両者は12%の賃金アップで合意し、約1週間にわたるストライキは終了、16日より建設工事が再開されている。

●コンフェデレーションズ・カップの際の賃金未払いに対する抗議

10日、コンフェデレーションズ・カップ開催時にスタジアム周辺で観客の誘導等に従事した関係者が、賃金未払いを理由に南ア・ワールドカップ運営委員会（LOC）事務所前で抗議活動を行った。同大会の開会式・決勝戦等が行われたヨハネスブルグのエリスパークでは約1,000人が交通整理、観客の誘導役等としてLOCに雇用されたが、そのうち850名に対する賃金が未払いになっている。LOC広報担当によると、未払いは被雇用者側の銀行口座等書類の不備によるもので、LOC側に非があるものではないとしているが、当地銀行に専用カウンターを設置し、混乱を解消、対処する方針としている。

●ワールドカップ時のボランティア、1万5千人を募集

20日、南ア・ワールドカップ運営委員会（LOC）は、ワールドカップ大会におけるボランティア募集プログラムを発表した。2010年3月時点で18歳であること及び英語に堪能であることを応募条件に、同委員会は国内外から約10万人の応募を見込んでいる。来年2月までに書類選考、面接を行い、メディア支

援部門、空港・ホテル等でのホスピタリティ部門など16の分野で15,000人の採用を予定している。

5. 警備・治安

●ムプマランガ州の黒人居住地における外国人襲撃事件

19日、ムプマランガ州バルフォア市内の黒人居住地において、外国人に対する襲撃事件が発生し約100名の外国人が避難した。ズマ大統領は襲撃を批判。昨年と同様、当初は行政サービスへの抗議行動であったが、外国人襲撃へ転化した。暴徒らはエチオピア人、パキスタン人、中国人所有の店舗から略奪した。警察は今回の暴動で99名を逮捕している。21日現在もバルフォアでは暴徒らが交通標識、車両、建物を破壊しており、散発的な暴動や略奪が続いている。警察は外国人の店舗所有者を安全な場所に避難誘導している。バルフォアに店舗を所有するパキスタン人は、「日曜日の夜に予告無しで抗議行動をよびかける拡声器の音がした。暴徒らは石で道路を封鎖し警察は外国人に避難を呼びかけた。」と述べた。また、店舗を襲撃されたエチオピア人は警察に救出され、別のエチオピア人は暴徒らから暴行を受け店舗を破壊された。ANC・ムプマランガ州のスポークスマンは、「行政サービスへの抗議は合法であるが抗議行動が犯罪者に乗っ取られている疑いがある。」と述べている。